

9月のある夜、美術館ホールに映画スタジオながらの撮影機材とセットが出現しました。舞台上のミニチュアセットで繰り広げられる“指先のダンス”がリアルタイムに背後のスクリーンに映し出されるという型破りな演出と、舞台上の無機質さとは裏腹の甘く切ないラブストーリーは、居合わせた観客たちの心を強く打ちました。2日目の公演は台風接近により中止を余儀なくされ、まさに“一夜限りの奇跡”となった本公演の目撃者たちの“証言”をご紹介します。

「創意工夫によって幻想のイメージを生み出すこと。そしてそのイメージが観客にさらなるイマジネーションを呼び起こさせること。映画はやはりこうあるべきだ、とあらためて感じた作品でした。公演のクライマックスでは、主人公と最愛のひとが映画から舞台上(撮影現場)に抜け出しダンスを踊る。幻想から現実への秀逸な転換であると同時に、情熱的な撮影現場の感動と映画そのものの感動を結びつける、何とも見事なラストシーンでした。」

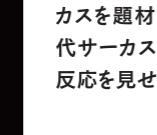
石橋義正
(映画監督・演出家・映像作家／京都)



「キス&クライ」高知だけの奇跡の一晩

「舞台を見ながら甘酸っぱい気持ちになったのは、かつて“KissしたりCryした”ほろ苦い記憶が、まるで男との生身の身体のような表現力を持つ「手」と、それを引き立てる演出の大技小技(女の待っている駅が「高知駅」になっているのには笑った)によって呼び起されたから?あの夜あの贅沢な時間に立ち会えた、なんという幸運!」

香川悦子
(教師・ダンサー／愛媛)



KENBI REPORT #22

佐野寛
(ガルニエ・デルオーテンボ店主)

「アートとエンターテインメント、舞台と映画の高いレベルでの見事な邂逅。リアルタイムで紡ぎ出される甘美な映像。あまりにも悲しくあまりにも美しい、人生というものを肯定してくれる心に残る作品でした。一瞬の出来事が永遠になることも。監督および演者、照明、音楽、すべてのスタッフに脱帽。奇跡の公演に立ち会えたこと、本当に幸せに思います。」

東野真美
(ガルニエ・サポートガイド班／高知)

「制作の表側と裏側が混在する舞台上。開演すると客席との境目さえ消え、客席の私が舞台の一部に入り込んでしまったかのような感覚に…。切ない音楽と共に語られる一人の女性の回想録。ダンサーの指や手が時にセクシーに時にコミカルに動き、彼女の悲しい恋愛歴を映し出します。アナログとも言える表現が、逆に心に染み込み痛いほど突き刺さってきました。」

エレール・カン
(ガルニエ・サポートガイド班／高知)

ロマン・ギマール
(ガルニエ・サポートガイド班／高知)

グウェンダル・ベリエ
(ガルニエ・サポートガイド班／高知)

「指先から感情を感じたのは初めてでとても美しく詩的な作品でした。凄く好きな作品です。」
*公演アンケートより

「すごく素晴らしいかった。言葉にならないほどに。」
*公演アンケートより



KISS
&CRY

ジャコ・ヴァン・ドルマル監督&ミシェル・アンヌ・ドゥ・メイ
「キス&クライ」9月16日[土]、17日[日] 美術館ホール

*17日は台風のため中止

Photo:Maarten Vanden Abeele

「すごく素晴らしいかった。言葉にならないほどに。」
*公演アンケートより

Photo:Taisuke Tsuru

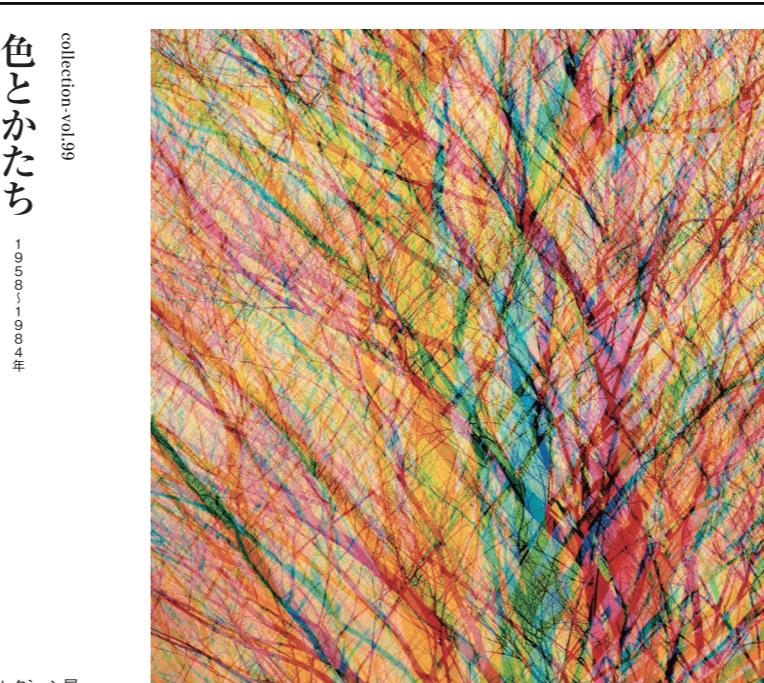
Photo:Maarten Vanden Abeele

ホール休館!
2018年2月1日(木)～9月30日(日)
吊り天井の脱落対策工事のため、しばらく美術館ホールを休館します。

現代サーカス公演「夜はこれから」のため来高したカンパニーXYのメンバーたちが、シャガール・コレクション展「サーカス」(9月5日～10月24日)を観に来てくれました!

フランスの大画商ヴォラールに招待されてサーカスと出会い、その世界に強く魅せられたシャガール。当館が所蔵する、サーカスを題材としたシャガールの版画シリーズに、フランスの現代サーカス界を牽引するカンパニーXYのメンバーは、どんな反応を見せてくれたのでしょうか?

Compagnie XY
Meets カンパニーXY × シャガール
Chagall “Circus” !!



石元泰博
collection.vol.99
色とことば
1958-1984年

マルク・シャガール《サーカス》(1967年、紙にリトグラフ、当館蔵)より

石元泰博・コレクション展
「色とことば」
2017年11月28日[火]
～2018年4月1日[日]
※2月5日(月)は展示替えのため休室
2階 石元泰博展示室

文◎茂木恵美子(当館学芸員)

例えは桂離宮をとらえた作品のよう
に、モノクロームの美しい階調と、均整の
された画面が特徴的な石元の作品のな
かで、カラープリントの本作は、風
変わった存在です。色彩豊かな木立は
画面上で重なり合い、異なる色彩とシル
エットを生み出しています。

一体どのように撮影されたのか、石元
は質問を受けたことがあるそうです。
その答えとして、「まず建物や木のかた
ちを撮った後、色彩を重ねるために、さ
らに2、3回シャッターを切るつまりひ
と石元は語っています。

この多重露光という手法を用いて制
作された本作品は、いつ撮影されたので
しょうか。黄色を基調に暖かな色が重
なり合う画面からは、まるで秋の紅葉
か木洩れ日の連想するかも知れませ
ん。すると、木の幹や枝のシルエットを覆つ
しまう木の葉が、思いのほか邪魔で、早
く枯れ落ちてしまえばいいのにと不心
得な思いを抱く。しょせん写真家はわ
がまま者である。」という言葉は意外に
感じることでしょう。というのも実は、こ
れら「シルエットを撮るには、空気の乾
いた冬が一番」なのだそうです。

もう一度画面に目を転じてみると、中
央を走るブルーのラインが画面を引き
締め、冬のきりっと冷たい空気を思い出
すようで、なんだか冬らしい作品に思え
てくるのです。

文◎茂木恵美子(当館学芸員)

例えば桂離宮をとらえた作品のよう
に、モノクロームの美しい階調と、均整の
された画面が特徴的な石元の作品のな
かで、カラープリントの本作は、風
変わった存在です。色彩豊かな木立は
画面上で重なり合い、異なる色彩とシル
エットを生み出しています。

一体どのように撮影されたのか、石元
は質問を受けたことがあるそうです。
その答えとして、「まず建物や木のかた
ちを撮った後、色彩を重ねるために、さ
らに2、3回シャッターを切るつまりひ
と石元は語っています。

この多重露光という手法を用いて制
作された本作品は、いつ撮影されたので
しょうか。黄色を基調に暖かな色が重
なり合う画面からは、まるで秋の紅葉
か木洩れ日の連想するかも知れませ
ん。すると、木の幹や枝のシルエットを覆つ
しまう木の葉が、思いのほか邪魔で、早
く枯れ落ちてしまえばいいのにと不心
得な思いを抱く。しょせん写真家はわ
がまま者である。」という言葉は意外に
感じることでしょう。というのも実は、こ
れら「シルエットを撮るには、空気の乾
いた冬が一番」なのだそうです。

もう一度画面に目を転じてみると、中
央を走るブルーのラインが画面を引き
締め、冬のきりっと冷たい空気を思い出
すようで、なんだか冬らしい作品に思え
てくるのです。

文◎茂木恵美子(当館学芸員)

例えば桂離宮をとらえた作品のよう
に、モノクロームの美しい階調と、均整の
された画面が特徴的な石元の作品のな
かで、カラープリントの本作は、風
変わった存在です。

中山高陽展

2018年1月17日～2月24日
一階第4展示室

文◎中谷有里(当館学芸員)
写真◎河田小龍(当館学芸員)

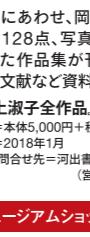
高陽の仕事
受け継がれる

高陽のベストセラーを
読んでいた!?

決定版作品集刊行! 『岡上淑子全作品』

本展にあわせ、岡上淑子のコラージュ作品128点、写真作品22点を完全収録した作品集が刊行されます。年譜、参考文献など資料も充実の内容です。
『岡上淑子全作品』
予価：本体5,000円+税
刊行：2018年1月
出版・同合せ先：河出書房新社
(営業部：03-3404-1201)

ミュージアムショップにて販売予定!



*表紙イメージ

a. はるかな旅 1953年
b. 沢山の奇蹟 1952年
c. 行き止 1952年
d. セラフ・シルバーリント 1955年
e. 東京で見つけた美術館 1954年
f. 手 1955年
g. 母 1952年
h. 岡上がコレージュのために集めていた素材や資料

1 コラージュ
1951～57年に東京・神田にあった美術画廊。若手作家のセレクトを美術評論家の瀧口修造が担い、わずかな間に200回以上の展覧会を開いて多数の若手作家を発掘、美術界に大きな影響を与えた。高知ゆかりの写真家・石元泰博も、1954年に当画廊で日本での初個展を開催している。

タケミヤ画廊

2 タケミヤ画廊
1953年、岡上はタケミヤ画廊で個展を開催します。すると「若いお嬢さん」だった岡上は、多くの美術誌、写真誌等で紹介され、東京国立近代美術館での「抽象と幻想」展にも出品されるなど、瞬く間に新進気鋭の作家となりました。(→KEYWORD3)しかし、岡上は1950～56年のわずか7年ほどを制作に費やし、約140点のコラージュ作品を残して、美術界から姿を消しました。ここに岡上の存在が幻と表現される所以があります。

3 創作活動
「幻の作家」その全貌に迫る
コラージュ作品のみならず、写真作品や関連資料もあわせて紹介し、作品が自然にできてしまふという岡上の着想の源泉に迫ります。また、コラージュをもとに後年制作されたシリクスクリーンプリントとプラチナプリントも作家の新たな試みとして紹介します。

郭子儀図

中山高陽筆(郭子儀図)(個人蔵)

タケミヤ画廊外観(1953年、北代省三展開催中)
(撮影：北代省三 東京パリッジングハウ)

中山高陽筆(郭子儀図)(個人蔵)を約50年ぶりに公開します。人物画を最も得意としたと言われる高陽。高知市に残された本団の下絵と見比べてみると、制作へのこだわりが見えてきます。

郭子儀図

中山高陽筆(郭子儀図)(個人蔵)

タケミヤ画廊内観(1953年、北代省三展開催中)
(撮影：北代省三 東京パリッジングハウ)

タケミヤ画廊内観(1953年、北代省三展開催中)
(撮影：北代省三 東京パリッジングハウ)